

八王子市立浅川中学校「平成20年度授業改善推進プラン」

【八王子市教育委員会教育目標】

「あふれる元気」健康な心身・活力
 「かがやく心」豊かな知性と感性・個性
 「仲間とともに」協調性・社会性
 「はばたけ未来へ」意欲・積極性
 の育成に向けた教育を推進する。

【教育目標】

- 1 自ら学び考え行動する生徒
- 2 豊かな心を持ち、思いやりのある生徒
- 3 心身ともに健康でたくましく生きる生徒

【地域の実態】

・自然に囲まれる住宅街と古くからの町
 ・学校に対して協力的な住民が多い

【地域・保護者の期待や願い】

・豊かな心の育成と確かな学力の定着など学校教育への期待が大きい
 ・体育的活動の活性化の要望が強い

【期待される像】

・自ら主体的の学ぶ生徒
 ・豊かな心をもつ生徒 等

【本校の現状】（「八王子市学力定着度調査」「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から分析できること）

「八王子市学力定着度調査」の分析より

教科に関する調査より

・国語は、基礎では、八王子市より約2Pt高いが、応用については4Pt低い。観点別では、おおむね八王子の平均Ptより高く、話す力・聞く力・書く力は3～4Pt高い。
 ・数学については、基礎では、八王子市より約1Pt、応用については約6Pt高い。観点別では、知識・理解が八王子の平均Ptとほぼ同じではあるが、数学的な見方や考え方は6Pt、表現処理は2Pt いづれも高い。
 ・英語については、基礎では、八王子市よりも-3Pt、応用では、-2Ptとなっている。観点別では「理解」が八王子市よりも-2Pt、言語文化理解は-3Ptと低く、本校の教科としての課題であり、補充学習や小学校と連携した英語力の育成が必要となっている。

意識に関する調査より

・「自ら学ぶ力」（学習スキルや自宅学習習慣）が市の平均の数値よりも高いものの、「学びに向かう力」（自己効力感・学習動機）や「学びを律する力」（特に学習のけじめ）については課題がある。

「平成19年度東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析より

・問題解決力において観点別に見ると、「問題を発見する力」は、都や市の平均に比べ約3Pt高く、「見通す力」も4～5Pt高い。しかし、「適用・応用する力」「意志決定する力」「表現する力」は、逆に1～2Pt低い。また、学習に対する意識が全体的に低いので、全教育活動を通して生徒の学習動機を高め、生徒に自己効力感を持たせられるような授業の工夫が必要とされる。少人数学習集団による指導（数学・英語）や学校林 栗山を活用した環境教育の積極的活用等、本校の特色ある教育活動をさらに充実させていくことはもちろん、基礎・基本的な学習内容が十分に身に付いていない生徒への、平素からの継続した学習支援体制をつくる段階にきていると考えられる。

【本年度本校における学力向上のための重点方針】

浅川中学校における学力向上のための重点事項

- 1 評価方法等の改善・充実に努めるとともに通知の仕方の改善を図る。
- 2 個に応じた指導の充実に努める。（数・英・3年技家での少人数学習集団による指導、学習ボランティアの活用など）
- 3 2期制のよさを生かし、長期休業期間・教育相談の有効活用による学校・家庭における学習サイクルの確立を図る。
- 4 授業改善推進プランに基づく授業改善を図る。

【本年度の学力向上の具体策】（いつまでに、どの程度）

- 1 平成21年3月までに、次年度の年間評価計画、評価規準の改訂を行う。
- 2 夏季休業を4日間短縮し、午前中に国語・数学・英語の3教科の補充教室を行う。補充教室は、全校生徒を対象に、講師も含めた全教員で指導にあたる。教材は、独自に作成する。
- 3 第3学年の選択教科のうち、国語・数学については、基礎・標準・発展の3コースに分け、その学力に応じた個別指導を4月より実施する。
- 4 4月当初から、どの教科担当教員も毎時の授業の導入部分において、ねらい（評価規準）を示し、その達成に向けた指導を実施する。
- 5 1から4の具体的な手だての4月～9月を始めとしたスタートにより、全教科の各評価の観点の達成状況「C」の生徒数を平成20年度中に1桁とする。
- 6 学習ボランティアの活用により、基礎・基本的な学習内容が十分に身に付いていない生徒への、平素からの継続した学習支援体制を平成20年度中につくり、21年度より本格実施できるようにする。

【学力向上の成果の検証及びその評価方法】

- 1 全学年において、日常の授業時及び年間3回実施される評定等、各教員の評価活動により、生徒の学力の向上の状況を把握する。
- 2 第1学年については、特定3教科の学習の状況の評価を、八王子市学力調査の結果を受けて、指導の改善を図る。
- 3 第2学年においては、1月に実施される都の学力調査結果を受け、特に学習に取り組む姿勢をより良くし、生徒の自学自習の学習習慣の確立に指導の重点を置く。
- 4 第3学年については、年間2回、自校体制で国語・社会・数学・理科・英語の5教科の学力調査を実施することにより把握し、学力の向上及び指導の改善に反映させる。
- 5 7月と12月に実施し、その結果から全教員が最低でも1つ以上の具体的な授業改善策を持てるように学校体制を整える。

教科等の現状と課題及び授業の改善点

教科等	現状と課題	改善策	教科等	現状と課題	改善策
国語	1 全単元において、言語理解における基礎知識がやや脆弱に思われる。理解はしているが、文章表現の記述の際に日常的に使用できていない。(前期中間調査等の結果から) 2 発表力に関して、文章の構成力がやや単純すぎる傾向がある。	1 各授業時間の中で新出漢字や難義語について、確認の時間を設けて、言語面での理解を確実にこなしていく。 2 漢字の小テストの回数を増やし、達成率が低い生徒には、個別の課題を設定し繰り返しの学習により定着をさせる。 3 感想、意見を文章化させてから、発表に繋げていくことで、言語能力の向上を図り、さらに伝え合う力の育成により積極的に取り組んでいく。	美術	1 絵画における「創造的な技能」の向上を図る必要がある。 2 「発想や構想の能力」にやや劣り、授業時間内での作品完成度が低い。	1 ねらいを明確にし、個々の資質に合った机間指導の充実をさらに図る。 2 毎授業時間の制作目標を確実に伝え、ワークシート・プリント等を効果的に使用し、積極的かつ計画的な授業への取り組みの向上を図る。 3 ゆとりある授業時間の設定。生徒の興味・関心を高める題材の設定。
社会	1 日本列島で国家が形成されていく過程を、東アジアとの関わりの視点でつかむ内容ができていない。(前期中間調査等の結果から) 2 評価の観点「社会的な思考・判断」についてCの生徒が多く、課題となっている。	1 各授業時間(1単位時間)において、さらに ねらい(評価規準)を明確にした個に応じた指導を充実させる。 2 時代の特色をとらえ、他地域とのつながりや相違点、大きな流れをじっくり考えさせ、まとめる時間を計画的に設定する。 3 生徒の興味・関心を一層高める教材開発に努める。 4 毎時の授業において、思考力・判断力を高めるために個々の生徒に考える場を多く設定する。	技術・家庭	技術 1 実習・製作を伴う授業の関心は高く、取り組む姿勢も個人差はあるが、かなり積極的である。 家庭 6月末の前期中間総括から 1 計画的(見通し)を持った物事の解決方法に辿り着けない。 2 評価の観点「生活への関心・意欲・態度」が低く、「家庭科」をよりよくしようと「学んだ知識」を生かそうとすることに不十分である。	技術 1 実技的・技術的学習活動を多く取り入れ、生活を工夫したり想像する態度を育てるために、より興味・関心がわく題材の工夫をする。 家庭 1 毎時のポイントを授業開始時に確実に伝える。 2 生徒自身が自ら考え授業に取り組めるようにし、内容にゆとりを持たせ、解決する態度や力を発揮できる時間をとる。
数学	1 「正負の数の計算」はかなり力をつけたが、「文章」を数式に直すことや、「文字」を使った式づくりが苦手である。 2 評価の観点「数学的な見方・考え方」においてCの生徒の割合が39%と高く、問題の意味をつかむことができなく、解答方法の分からない生徒が多い。(前期定期調査から)	1 少人数制のよさをもと生かし、授業中「なぜ?」という発問を多くし、個々の生徒に「考えさせる場面」を多く設定していく。 2 「文章を式にする問題」の演習量を増やし、文字アレルギー - を少なくしていく。 3 現在の「計算力」を今後も維持するため「数学オリンピック」を何回か実施していく。	保健体育	1 陸上競技全体について、達成状況を高める必要がある。(授業時における評価から) 2 評価の観点「運動についての技能」の達成状況が、6月末総括時に他の観点より低い結果となった。	1 発達段階に応じた1人1人の技術・体力向上について、よりわかりやすい具体的な指導の方法を考える。 2 チーム作り・小集団作りを多く取り入れ、競争の場面を取り入れることで、チームの記録向上のために自分がどのような技術を身につけたり、高めたりすればよいかを考えさせる機会を持たせる。
理科	1 葉のつき方の共通点や相違点をあげ、日光のあたり方と関連付けて考える力が弱い。(前期中間調査等の結果から) 2 顕微鏡を使って観察することや、観察したものをスケッチして、レポートにまとめる力が弱い(授業観察から)	1 生徒に考えさせる時間を多くして、疑問に思ったことや課題について自分で考えて答える時間を多くする。全く考えることが出来ない生徒に対しては、考えやすいようにアドバイスをしてサポートする。 2 実験したあとは自分で考え考察する時間を多くとる。また、考察に停滞している生徒については、個別指導を十分に行う。 2 1単位時間のねらい(評価規準)を明確にして計画的に行う。	外国語	1 書くと言うこと、知っている単語を使って自分の伝えたいことを表現することが苦手である。(授業時における評価から) 2 評価の観点「表現の能力」ではCの生徒が20%を占めている。(6月末の前期中間総括から) 3 評価の観点「理解の能力」ではBの生徒が13%、Cの生徒が1%であった。(6月末の前期中間総括から)	1 十分な授業準備をしてわかりやすい授業に心がけるとともに、質問しやすい環境を作り、生徒の疑問を取り除くように努める。 2 生徒の集中力を高める工夫をし、学習した表現を使って発言したり、書いたりする場面を増やす。
音楽	1 単元にかかる時間が少なかったため、鑑賞「春」・「プルタバ」の、評価の観点「鑑賞の能力」の達成状況について、Aの生徒が他の観点に比べ、低かった。	1 鑑賞活動を深めるため、授業時間を増やすとともに、授業目標を明確にした授業をする。 2 一人一人の声を聞きアドバイスをして個々の目標を持たせるようにする。	総合的な学習の時間	栗山に親しむ活動や栗山を維持する活動に取り組みながら、「地球環境」というテーマで調べ学習をし、まとめたものを発表する。また、国立高専との連携を図りサイエンスパートナーシップを実施し、科学に関心を持たせることができた。発表の仕方を工夫させたい。	職場訪問や職業に関する学習を通して自らの生き方について考えさせるとともに、より良い発表ができるように指導していく。
その他(道徳・特別活動等) 道徳では、副読本や心のノート、教員が開発した教材などを使用し、毎週の授業を意図的・計画的に行ってきた。その結果思いやりの心、自然愛護、社会の規律などの意識が深まった。学級活動では、基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、学年・学校行事などを通して、より望ましい集団作りを図っていく。					

教科等	現状と課題	改善策	教科等	現状と課題	改善策
国語	<ol style="list-style-type: none"> 1 言語知識と活用においてやや脆弱な部分がある。既習事項の再確認を行う必要がある。 2 文法事項において、基礎は理解しているが、応用となるとやや正確さに欠ける。 3 発表行為には、意欲は高いが、事前に自己で再確認させる必要がある。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 読み物教材にじっくりと時間をかけて取り組ませる。差し込み教材などにより、興味関心を持たせる。 2 漢字や語句の小テストを繰り返し行い、基礎の徹底を図り、文章構成の基礎を築く。 3 単元ごとに、感想や意見をノート等に文章化させ、さらに発表につなげさせていくことにより、言語能力の向上を図る。 4 毎回の授業の導入で、発表を行い、表現力の深化を図る。 	美術	<ol style="list-style-type: none"> 1 絵画における「創造的な技能」の向上を図る必要がある。 2 「発想や構想の能力」にやや劣り、授業時間内での作品完成度が低い。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 ねらいを明確にし、個々の資質に合った机間指導の充実をさらに図る。 2 毎授業時間の制作目標を確実に伝え、ワークシート・プリント等を効果的に使用し、積極的かつ計画的な授業への取り組みの向上を図る。 3 ゆとりある授業時間の設定。生徒の興味・関心を高める題材の設定。
社会	<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな資料の読み取り方についての基本的な学習不足から、地域ごとに異なる農業の特色、他地域との違いなどについての理解が十分ではない。 2 時代の大きな流れの把握が不十分である。 3 観点「思考・判断」「資料活用の技能・表現」についての評価が低い。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 各授業時間(1単位時間)において、さらに ねらい(評価規準)を明確にした授業を行う。 2 資料を収集・選択・活用し、考察し、まとめる学習に重点を置き、単元指導計画等の改善を図る。 3 時代の特色をとらえ、他地域とのつながりや相違点、大きな流れをじっくり考えさせ、まとめる時間を計画的に設定する。 4 生徒の興味・関心を一層高める教材開発に努める。 	技術・家庭	<p>技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 製作を伴う授業への取り組みは、積極的に評価できるが、知識としての授業になると、学習態度が身に付いていない生徒が見受けられる。 <p>家庭</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 計画的(見通し)を持った物事の解決方法に辿り着けない。 2 評価の観点「生活への関心・意欲・態度」が低く、「家庭科」をよりよくしようと学んだ知識を生かそうとすることに不十分である。 	<p>技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活を工夫したり、想像する態度を育てるためには、より興味・関心がわく学習題材を工夫する必要がある。 <p>家庭</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 毎時のポイントを授業開始時に確実に伝える。 2 生徒自身が自ら考え授業に取り組めるようにし、内容にゆとりを持たせ、解決する態度や力を発揮できる時間をとる。 3 繰り返し確認していく。
数学	<ol style="list-style-type: none"> 1 少人数制基礎コースの生徒は特に「関数」に対して抵抗があり、ともなわかわる概念が理解できない。 2 数量関係を数式に表すことが理解できない生徒が1/3いる。 3 「数学的な見方や考え方」の評価Cの生徒が60%もあり、事象の数量関係を式化することが苦手である。(前期仮評定から) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 計算力を維持しながら、少人数制のよさをもっと生かし、教師に頼らずに「考え」「式を作る」作業を個々でできるように指導していく。 2 「関数」や「文章題」では基本問題を多く解かせ、生徒に自信を持たせたい。 	保健体育	<ol style="list-style-type: none"> 1 陸上競技全体を通して、記録向上のために、具体的にどのような技術や体力を高めなければいけないのかを考えさせることが十分出来なかったため、評価の観点「運動についての思考・判断」が、観点別評価平均 60%と他の観点より低い結果であった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 個人の学習カードを利用し、1人1人に自分の技術・体力向上のための方法を考える機会を持たせる。 2 チーム作り・小集団作りを多く取り入れ、競争の場面を取り入れることで、チームの記録向上のために自分がどのような技術を身に付けたり、高めたりすればよいかを考えさせる機会を持たせる。
理科	<ol style="list-style-type: none"> 1 実験を通して、考察をまとめることが苦手である。(授業観察による) 2 実験について、何についての実験を行っているのかさえ、分かっていない生徒が多い。(授業観察) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 実験・観察を行うときは、ねらいや目的を明確にして生徒に分かりやすく説明する。また、考察させる時間を十分にとり、自分の力で考察を導き出せるようにサポートする。 2 1単位時間のねらい(評価規準)を明確にして、計画的に授業を行う。 3 日常生活に関連した内容を意図的・計画的に取り入れ(単元計画に位置付け)、生徒の興味関心を高める。 	外国語	<ol style="list-style-type: none"> 1 聞いたり、読んだりした内容についての質問事項に答える練習の不足から、評価の観点「理解の能力」のCの生徒が40%を占めている。英語を聞いたり、読んだりして内容を把握する力があまりついていない。(6月末の前期中間総括から) 2 質問に応じた答えをだすための言語の知識・理解が不足している。(授業観察等) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 内容把握のQ & Aの時間を増やす。またリスニング力をつけるため、毎時間、リスニングを取り入れた活動を取り入れるようにする。(ペアワーク、グループワーク、T or F等) 2 少人数制の利点を生かし、ペアワーク、音読練習等、個々が英語を多く使えるようにする。 3 ALTの授業をより一層コミュニケーション型に行う。 4 定期的な小テスト、スプリングコンテストを行い、言語の基礎的な知識をつけさせる。
音楽	<ol style="list-style-type: none"> 1 「表現の能力」が低くなってきている。声を出すこと、仲間と協調できること、ができていないところが見える。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 声だしのトレーニングは引き続き継続・工夫をして、マンネリにならぬよう指導を工夫する。 2 指揮法を工夫し、生徒の声を引き出す。また、言葉の語感を生かした美しい歌い方の指導に力を入れ、意欲を持たせる。 	総合的な学習の時間	<p>栗山に親しむ活動に取り組みながら、「職と環境」というテーマで自ら課題を設定し、調べ学習後、プレゼンテーションに取り組んだ。</p> <p>校外学習においても、課題設定し、追求することに重点を置いた。</p>	<p>職場福祉体験においても、体験をまとめ、今後の自らの生き方にまで深めていくよう指導する。</p>

その他(道徳・特別活動等)道徳では副読本を中心にしながら、その時々々の学年状況に合わせて読み物教材を使用し授業を行ってきた。その結果、教育目標の「豊かな心を持ち、思いやりのある生徒」の育成に取り組めた。また、特別活動と総合的な学習の時間の連携において、車椅子体験活動や職業体験活動などを行い、ボランティア精神や健全な職業意識を身に付けさせていく。それらを達成するため、体育祭や合唱コンクール、移動教室等の行事を通して、集団生活について考えさせていく。しかしながら、心がまだまだ育っていない生徒も多くさらなる成長を図るために、道徳や特別活動の内容を工夫していく。

教科等の現状と課題及び授業の改善点

教科等	現状と課題	改善策	教科等	現状と課題	改善策
国語	1 読書時間及び量の減少による読解力不足がみられた。(授業観察・夏期休業中課題などから) 2 漢字や語句の意味などは比較的できているが、文法的な事項になるとしっかり理解している生徒が少ない。(授業観察及び前期中間考査から) 3 文章表現が苦手な生徒が多い。表現方法を理解していても日常的に使用できない。(授業観察等から)	1 読み物教材にじっくりと時間をかけて取り組ませる。補助教材などにより、興味関心を持たせ、読書習慣を育成する。集団読書の時間をつくり内容確認させる。 2 漢字や文法などの小テストを繰り返し行い、基礎の徹底を図る。 3 単元ごとに、感想や意見をノート等に文章化させ、さらに発表につなげさせていくことにより、言語能力の向上を図る。	美術	1 絵画における「創造的な技能」の向上を図る必要がある。 2 「発想や構想の能力」にやや劣り、授業時間内での作品完成度が低い。	1 ねらいを明確にし、個々の資質に合った机間指導の充実をさらに図る。 2 毎授業時間の制作目標を確実に伝え、ワークシート・プリント等を効果的に使用し、積極的かつ計画的な授業への取り組みの向上を図る。 3 ゆとりある授業時間の設定。生徒の興味・関心を高める題材の設定。
社会	1 複雑な国際情勢のなかでの理解があいまいなため、近現代史のできごとや流れの理解が不十分である。(都学力向上調査から) 2 評価の観点「社会的に事象についての知識・理解」の達成率が62.3%と八王子市平均や都平均よりやや低い。(都学力向上調査から)	1 知識等の習得については、各授業時間において、さらにねらいを明確にした授業を行い、評価し、適切な個に応じた指導を行う。 2 現代社会についてしっかり理解させるよう、それらにかかわる重要事項の反復学習に重点を置くとともに、資料を活用した課題解決的な学習の時間を取り入れるよう計画、実施する。 3 生徒の興味・関心を一層高める教材開発に努め、それを実施する。	技術・家庭	技術 1 授業時数が少なく、系統的な授業が組みにくい、「生きる力・生活者としての自立」を課題とする。 家庭 6月末の前期中間総括から 1 計画的(見通し)を持った物事の解決方法に辿り着けない。 2 評価の観点「生活への関心・意欲・態度」が低く、「家庭科」をよりよくしようと「学んだ知識」を生かそうとすることに不十分である。	技術 1 自ら課題に積極的に取り組み、解決しようとする態度を育てたい。 家庭 1 毎時のポイントを授業開始時に確実に伝える。 2 生徒自身が自ら考え授業に取り組めるようにし、内容にゆとりを持たせ、解決する態度や力を発揮できる時間をとる。 3 シラバスの活用をしていく。
数学	1 「数と式」で指数を含む正負の数の計算の正答率が、唯一都平均を下回っている。(全国学力調査から) 2 「数量関係」の問題(6問)の正答率が、都平均を下回っている。(全国学力調査から) 3 評価の観点「数学的な見方・考え方」に関数問題を苦手とする生徒が多い。(前期中間考査から)	1 少人数授業のよさをさらに生かし、生徒とのやりとりを大切にしながら、既習事項の復習や考察する場面を多く取り入れていく。 2 「考える力」をさらに伸ばすために、「数量関係をとらえる問題」「方程式に関する文章題」「関数を利用した問題」「規則性を見いだす問題」などを多く扱い、丁寧な指導を行う。	保健体育	1 陸上競技全体を通して、記録向上のために、具体的にどのような技術や体力を高めなければいけないのかを考えさせることが十分出来なかった。そのために、「運動についての思考・判断」の観点別評価平均が68.4%と他の評価の観点より低くなってしまった。(7月時、総括から)	1 個人の学習カードを利用し、1人1人に自分の技術・体力向上のための方法を考える機会を持たせる。 2 チーム作り・小集団作りを多く取り入れ、競争の場面を取り入れることで、チームの記録向上のために自分がどのような技術を身に付けたり、高めたりすればよいかを考えさせる機会を持たせる。
理科	1 1分野の「運動のエネルギー」では、実験結果から物体の運動をよく理解できているが、平均の速さなどを求める問題では、つまり生徒もいる。「化学変化とその利用」では、実験と理論が比較的結びつきやすく、ほとんどの生徒が理解できている。 2 2分野の「地球と宇宙」に関しては、観察と実際の天体の動きを結びつけて考察することが難しい生徒が見受けられる。「生物のふえ方」では、比較的よく理解している。	1 実験用具の基礎操作に関して、一人一人が習熟するまで指導してきたが、継続的に指導する点で不十分であった。実験観察では常に基本に立ち返りながら進めていく必要がある。 2 評価の観点「知識・理解」が身に付くには繰り返し学習と実験観察が重要であり、今後とも器具を充実させ、実験観察の機会を多くしたい。 3 1単位時間において、ねらいを明確にした授業を行う。	外国語	昨年度は、いかにリスニング力を向上させるかに取り組み、成果を上げることができた。 今年度は、最も苦手とする表現力、作文力を伸ばすことが重要な課題となっている。語彙力をつけるためのスペリングコンテストや単元ごとに単語の小テストを実施している。	表現力をつけるために、語彙を増加すること、英語の文型・構造を正しく理解することを重視して指導。また、プリントで部分作文、補充・追加作文、全文、接続詞を入れた作文などの練習を入れ、自分の考えや気持ち表現する意欲を高めるよう取り組んでいる。
音楽	1 歌唱の実技テストでは、よく頑張って高得点をあげている生徒が多い。しかし、工夫・感受となると、まだAになる生徒が少ない。曲想を理解し、感動的に歌い上げるための工夫を考えたい。(知識面・技術面・総合的な表現力)	1 パート別練習を工夫し、自ら取り組む授業を創る。また、一人一人へのアドバイスを行ない、歌唱意欲を高めるとともに、教師が指揮を行い、言葉だけの指導にならないようにする。 2 言葉の語感を生かした美しい日本語の歌い方の指導に力を入れ、意欲を持たせる。	総合的な学習の時間	1 生き方学習では、ほとんどの生徒が自身の進路について考え、さらに将来の夢や職業について考えることができた。2 教科総合学習では、京都・奈良に関わる調べ学習を行い、学習のしおりを作成し、結果をまとめ発表することができた。3 栗山学習については、主に環境の保生に取り組んだ。	1 年間指導計画に基づいて、栗山学習を進め、環境問題等に関心高め問題解決能力を育成する。

その他(道徳・特別活動等)道徳では、副読本などの資料を使用し、4領域23項目に関わるそれぞれの文章をを主として、授業を行う。その中でも特に、集団や社会とのかかわりに時間をかけ、進路学習、生き方学習にもつなげていく。また、各行事に積極的に取り組ませることにより、教育目標「自ら学び考え行動する生徒」「豊かな心を持ち、思いやりのある生徒」「心身ともに健康で、たくましく生きる生徒」の育成につとめる。